

学びを意識化、自覚化、言語化する授業の工夫

大仙市立大曲中学校 教育専門監（国語） 栗津 明子

国語は、「授業で学習したことは、『〇〇〇（教材名）』『何をどう考えてよいかわからない』『力が付いているのか不安だ』と思う児童生徒が少なくない傾向が見られる。その解決に向けて、身に付ける資質・能力の意識化、働かせている「言葉による見方・考え方」の自覚化、自己の学びの言語化をさせる手立てを工夫した。

① 単元の構想

- ・生徒にとって学びのエンジンとなる言語活動と魅力的なゴールを設定する。
- ・「習得→活用」の流れを設定した単元を構想する。
- ・生徒に単元名（身に付ける「資質・能力」と「言語活動」）を提示し、どんな国語の力を身に付けるための学習なのかを意識付ける。（授業時の黒板掲示 学習計画表への記載）

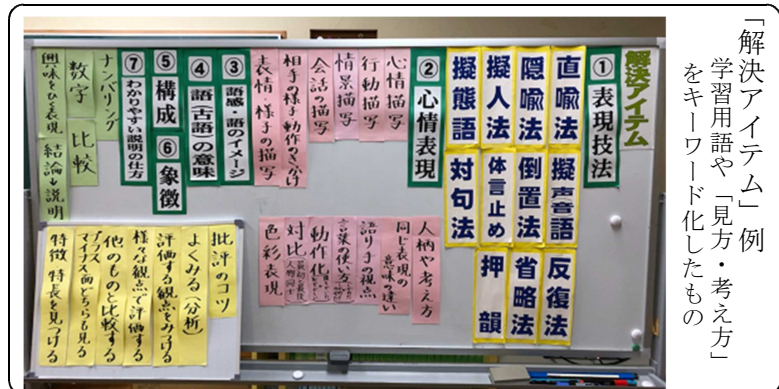
例 単元名	詩の味わい方を見付け、描かれた世界を読み深めよう ～構成や表現の工夫について評価する～（教材 「初恋」）
課題解決的な言語活動	二編の「初恋」を比較し、どちらが「初恋」という題名にふさわしいかを批評する
ゴール	構成や表現の仕方を批評した学びを生かし、「初恋」というテーマで詩を創作する。

② 初読の感想を生かした学習課題づくりと学習計画の立案

- ・初読の感想として、「言語活動」に関連した感想や疑問を付箋に記述させる。
- ・学級全員分の付箋を貼って学習シートにし、その内容を基に学習課題をつくり、ゴールを示して学習計画を立てる。

③ 「言葉による見方・考え方」を働かせた考えの構築

- ・学習課題の解決に向けて活用できそうな既習事項や「解決アイテム」を想起させる。
- ・「解決アイテム」を活用して、言葉に着目し、根拠をもって個の考えを構築させる。
- ・「比較や対比」「必要性の有無」「言い換え」といった視点を提示し、考えを広げさせたり、深めさせたりする。



「解決アイテム」例
学習用語や「見方・考え方」をキーワード化したもの

④ 協働的な学び合いの場の設定

- ・課題解決を図るための適切な意見交流の形態（ペア・グループ・全体・自由討論・ワールドカフェ）を生徒に選択させ、場を保障する。
- ・他の意見に対して、「観る・聴く」視点（比較・分類・共通点・相違点・疑問・吟味・精査・関連付けなど）と「訊（き）く」視点（「どうすればそう考えられるのか」「本当にそう言えるのか」など）を意識して、二往復以上の意見交流を心がけさせる。
- ・切り返しやゆさぶり、関連付けなどの教師のコーディネートで、生徒の思考の交流を活発化させる。

例 発表者に対して	「特に、どの言葉からそう考えたの？」 「参考にした友達のかたちはある？」
発表者以外に対して	「今の発表にうなずいた（首をかしげた）のはなぜ？」 「今の発表に他の根拠を付け足すとしたら？」 など

⑤ 明確な視点を与えた「振り返り」の記述

- ・どのような点に着目し、どのように考えて課題を解決できたかを振り返り、新たな「解決アイテム」を作成する。
- ・できたこと、できなかったこと、解決の経緯について振り返らせ、自己の実態、変容を自覚させる。
- ・単元全体の振り返りでは、身に付けた力を汎用的なものとして自覚できるように、国語の学習以外の場面でもどのように生かしていきたいかを記述させる。